



こんな家に住みたい
第685回 北中城村 Hさんの家

フレッシュな風が舞う 筒状の大開口を持つ家

道路面と高低差のあった80坪強の敷地を造成し、6m近く掘り込んだ駐車スペースの上に2階建ての住居を新築したHさんご夫妻。人が集まることを意識してプランニングした室内は、リビングとデッキがフラットにつながり開放感にあふれ、風通しも抜群。外観上は大きく開いたコンクリートの口が、Hさん宅を特徴付ける顔となっています。

なっており、多少の風雨があっても問題なし。室内に差し込むとする日射も和らげてくれます。
「住み始めたのは昨年の夏。西日に悩まされたことはほとんどなく、台風時もまったく影響がありませんでした」。そんな懸念をはるかに上回る快適さが毎日継続し、「家の中はとにかく風通しが抜群。キッチン脇の戸を開けると、デッキから舞い込んだ風が水回りを抜けて敷地東面の庭に流れ、本当に気持ちいいですよ。」

**1階のフロア全体が囲らんの場
たぐさんの人が集まる家に**

具体的な間取りや意匠は徐々にイメージを膨らませていった一方で、最初からHさんが漠然と思い描いていたのは「親戚や友人をはじめ、たぐさんの人が集まれる家にする」と。だからリビングに併設する和室を小上がりにしたのは、椅子代わりに応用できることも理由の一つ。また壁掛けテレビを配した壁面には、腰掛けにもできるほどゆったりしたサイズのコンクリート製ポードを設けました。

このポードがそのまま階段の一段目につながっているのは建築士さんのアイデア。壁と同一化しているせいか階段の存在感が薄れて、室内がよりスッキリと感じられますね。

インテリアは奥さまの要望に従い、白を基調にした清潔感あふれるコーディネート。床や建具の木部もトーンを合わせ、ナチュラルな風合いの建材

LDKを中心とした生活のメインスペース。リビングとデッキテラスは床がフラットにつながり、窓をフルオープンにして室内から筒の外を眺めれば、住宅街とは思えない開放感が得られます。リビングから2m超張り出したデッキテラスは、両サイドと頭上をコンクリートに覆われた半屋外空間に

面でも住み心地の面でも納得のいく家ができました。大通りから一本中に入った住宅街。家づくりにあたり、相談に訪れた建築会社から「同年代だし、リビングが合うだろう」と紹介されたその建築士とは、紹介者の想像以上に相性がぴったりでした。

フレッシュな光と風を室内へ呼び込んでいます。「計画当初は特にこだわりもなく、オーソドックスな家のイメージしか頭になかったんですけどね」とは施主のHさん。「でも建築士さんが頑張っているという提案してくれて、やり取りを重ねるうちにアイデアの幅も広がり、おかげでデザイン

リビングとデッキをフラットにつなぎ、室内外を一体化

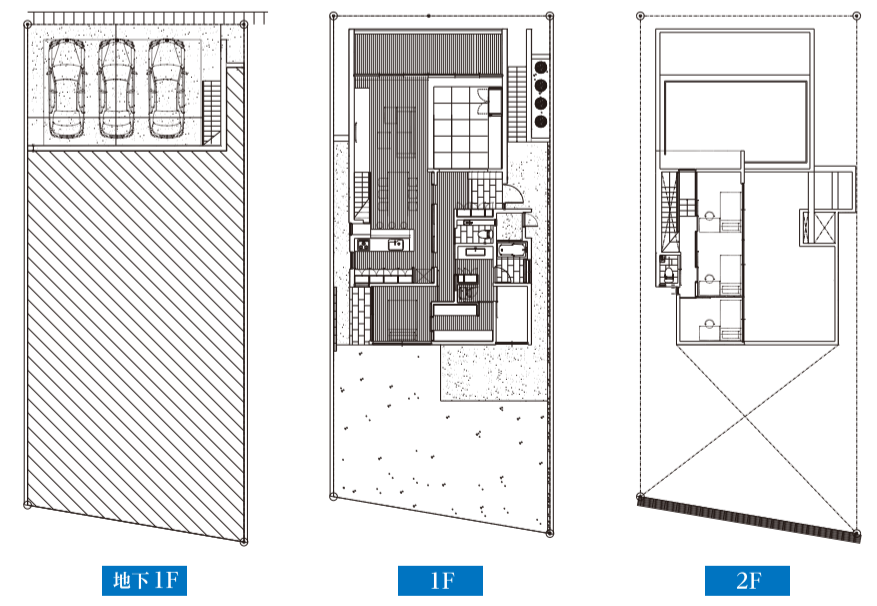
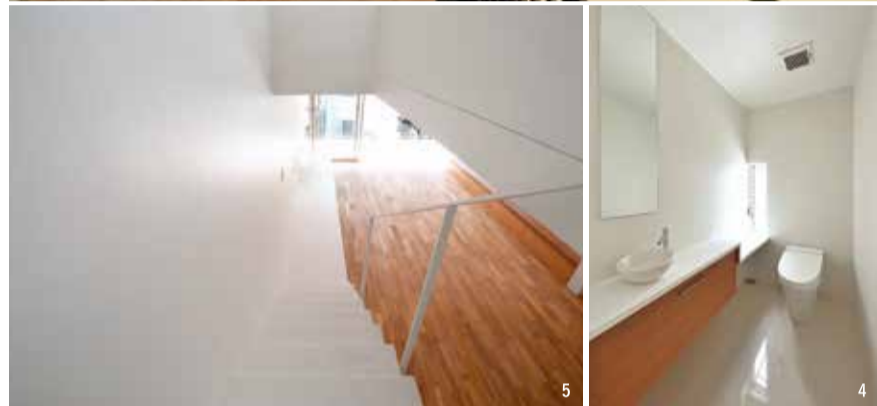
ぽっかりと開いたコンクリートの大きな口が、宙に浮いたようなファサードが印象的。日が当たると真下にある駐車場には大きな影だまりができ、機能面ではこの大開口が筒の吸込口のような役割を担って、



ただのシンプルな間取り。しかも、勉強して寝るだけの広さがあれば十分」との方針に従い、最小限のサイズにとどめ、残りは屋上テラスに充てました。狙い通りに3人の子もたちはほとんどの時間を1階で過ごし、フロア全体が囲らんの場に。ご夫妻も思い思いにくつろぎながら、家の中は気を抜ける場所。今は新築一年目でまだきれいな状態ですが、家族の成長とともに徐々に、味が出てくるでしょう」と話し、デッキや和室で自由に過ごす子どもたちの様子を見守っています。

ウオーキングローゼットを含めた水回りの使い勝手のよさは、奥さま最大の満足ポイント。LDKから完全に独立したエリアにありながら、キッチンとは廊下を挟んですぐ隣の位置にあり、あらゆる家事が最短距離の移動でこなせます。さらにバスルーム脇に配置した坪庭や、一つの家具として造作したトイレの収納などが水回り自体の居心地のよさを高めています。

を採用しました。一カ所だけ趣が異なっているのは和室の床の間です。壁を柿渋和紙で仕上げることで空間にアクセントを添えるとともに、床柱は以前の祖父宅にあったものを再利用してもらいました。



所在地：北中城村
家族構成：夫婦、子ども3人
設計：建築設計事務所アトリエセグエ（担当/比嘉俊一）
敷地面積：269.52㎡（約81.52坪）
建築面積：122.39㎡（約37.02坪）
延床面積：196.15㎡（約59.33坪）
用途地域：
構造：壁式鉄筋コンクリート造3階建て
完成時期：2019年6月

施工
建築：株式会社沖秀建設（担当/仲宗根徳）
電気：有限会社三友電水工事社（担当/藤原豪）
水道：有限会社ライフ工業（担当/高山佳晃）
キッチン：ひまわりガス株式会社（担当/山内昌太）
構造：黒岩設計構造事務所（担当/黒岩裕樹）

1. 6m近く張り出したリビングやテラスは、まさにHさん宅の顔。駐車場を最大限確保するという要望に応えると同時に、おらかな影を敷地に落としとしています。2. 和室は約6畳の広さ。障子などはあえて設置せずオープンな造りとし、リビング・和室・テラスは一つの空間として広々と使う計画となっています。床の間を彩る壁の柿渋和紙がアクセント。3. リビングのソファに家族で腰掛けリラックスタイム。LDKとベランダのデッキスペースは6枚の掃き出し窓を介して連続。4. トイレは収納一つの家具として計画することで落ち着いた雰囲気演出。床はメンテナンスを考慮してタイル張りに。5. 2階から階段を見下ろす。階段はテレビポードと一体的に計画することで、飾り棚・ベンチなど多目的な利用が可能。6. バスルーム脇には採光・換気のために坪庭（バスコート）を配置。植栽などでバスタイムをより楽しく。7. リビングの延長として半屋外のデッキテラスを計画。床に段差がないため窓を両脇に引き込めば、一体的に利用できます